



# 一宮ハート・ギュッと・ネット ～1年を振り返って、見えてきた課題～

医療法人 井上内科クリニック



<b>名称</b>	<b>医療法人井上内科クリニック</b>
<b>業務</b>	クリニック(有床診療所) 介護施設(デイサービス4、ショートステイ1、デイケア1、有料老人ホーム1) 在宅医療 140名
<b>体制</b>	職員 200名 医師4名(常勤3名、非常勤1名)、看護師28名、介護支援専門員9名、他



## 当院の在宅医療の実績

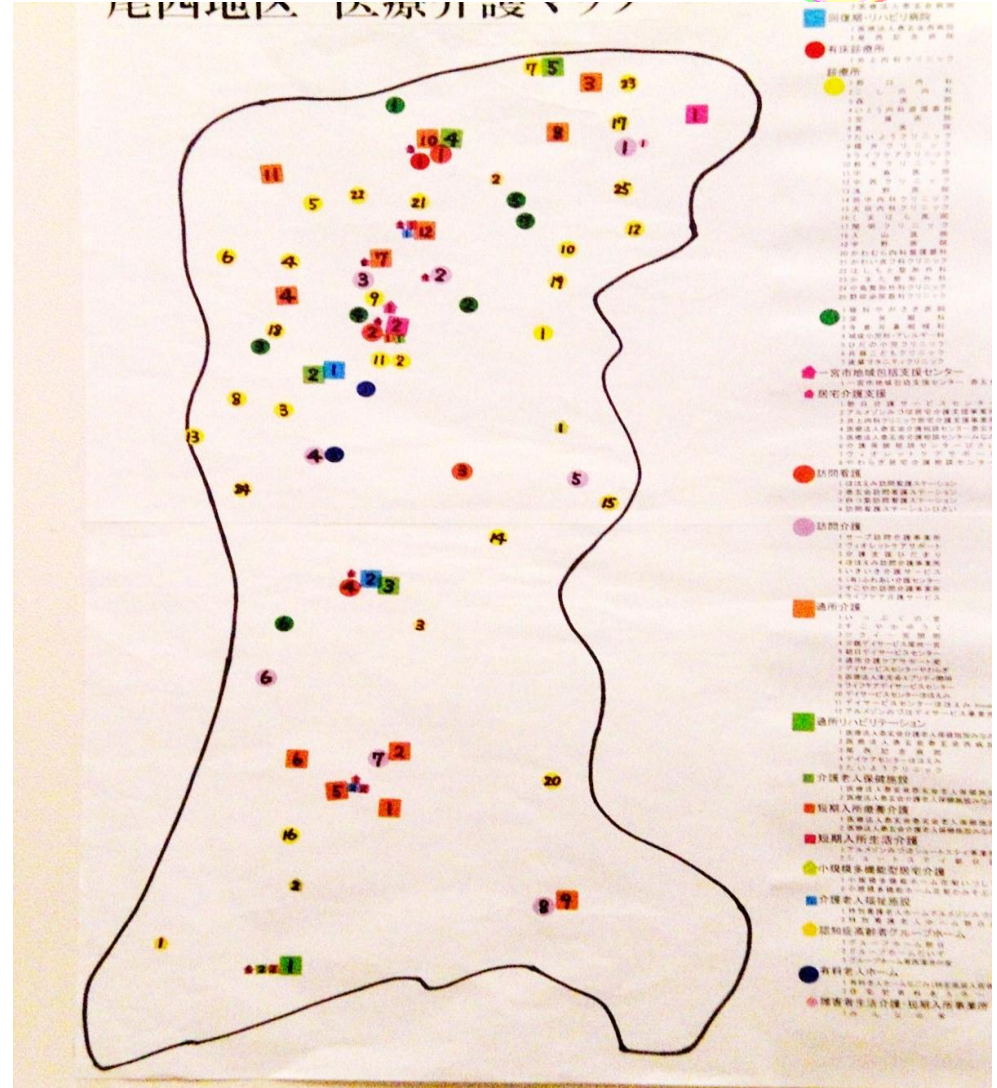
- ◆ 在宅医療を平成8年より実施
- ◆ 在宅における看取りも実施  
平成18年から現在まで、47名
- ◆ 24時間365日体制で、現場からの連絡を受ける  
オンコール体制  
医師3名、訪問看護師6名に連絡し当番が対応



# 医療介護資源調査

一宮総人口約38.6万人  
65歳以上高齢化率22.1%  
旧尾西市人口約6万人  
65歳以上高齢化率23.6%  
(H24.4.1現在の市統計より)

旧尾西地区の南部は田畑が多く、  
診療所や介護施設が中心部に集中  
している。  
独り暮らしの高齢者も多い。  
デイサービスなどの施設は多いが、  
医療依存度の高い方が利用できる  
施設が少ない。



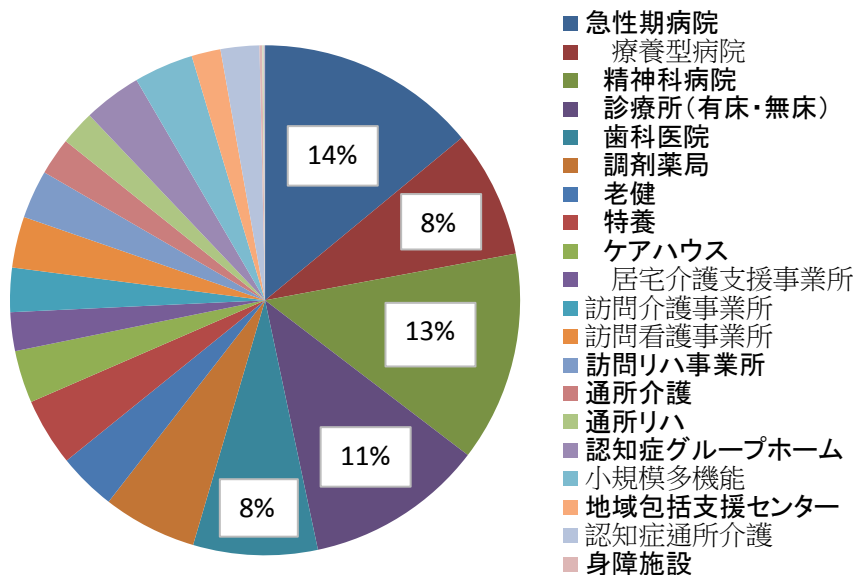


## 在宅医療に関するアンケート調査①

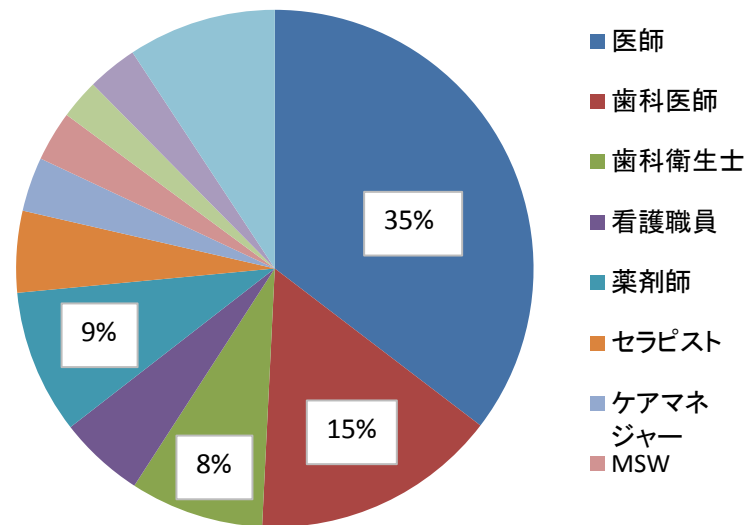
- 目的** 在宅医療を進めていく上で、地域における連携上の課題の抽出と解決策の検討
- 対象** 病院、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ST、地域包括支援センター、介護保険事業所等
- 時期** 平成24年6月16日～8月31日
- 結果** 822部配布、468部回収

# 在宅医療に関するアンケート調査報告②

Q日頃の業務の中で連携が難しい施設やサービス事業所はどこか？



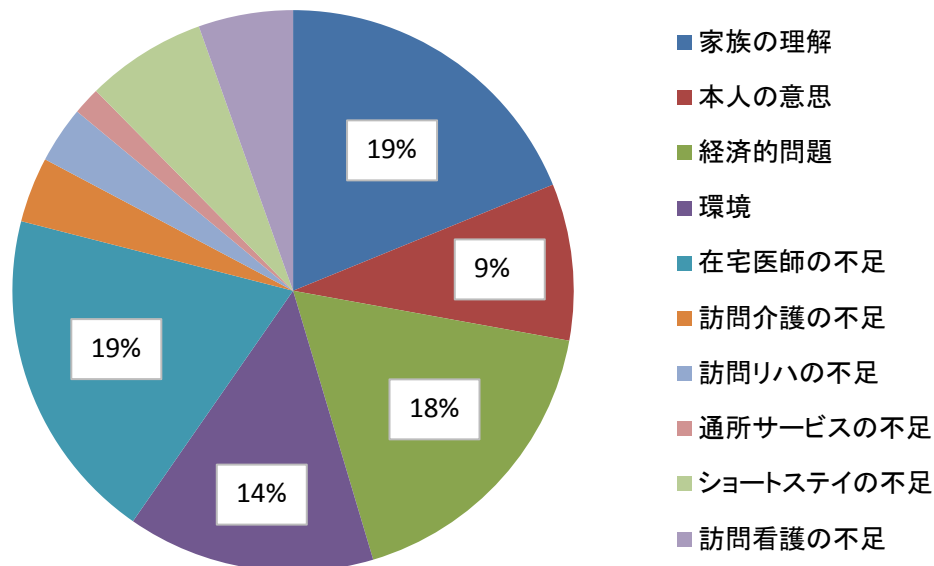
Q在宅医療を進めていく上で連携を取るのが難しい職種はどこか？





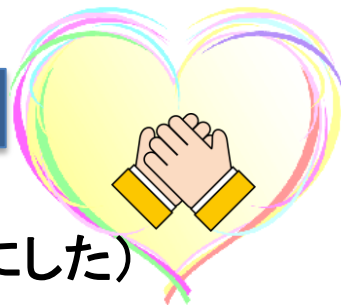
## 在宅医療に関するアンケート調査報告③

Qこの地域で在宅医療を行うことが難しい理由があると思われますか？



### 地域の課題

- ・医師と連絡が取りづらく、悩んでいるケアマネが多い。
- ・医療依存度の高い方の、受け入れが難しい。
- ・独居世帯、高齢者世帯が多い。
- ・経済的な問題で医療や介護サービスが十分に使えない。



## 在宅医療連携ガイド

(ケアマネが医師と連絡をとる時の方法や時間帯を一覧にした)

院長名		井上 雅樹						TEL	0586-64-0003		FAX	0586-64-0014							
		月	火	水	木	金	土	日	祝	窓口担当者 (Dr代理対応の方)									
午前9:00 - 12:00		○	○	○		○	○			看護師 (神田広美)									
午後4:30 - 7:00		○	○	○		○	14時 ~17												
医師との連絡方法		優先順位	連絡をとっても良い時間帯と曜日							環境整備 (バリアフリー化)									
FAX連絡		1	診療時間内であれば、いつでも可能							月	火	水	木	金	土	日	玄関(スロープ)	○ 有	・ 無
電話連絡		2	診療時間内であれば、いつでも可能							月	火	水	木	金	土	日	トイレ(多目的)	○ 有	・ 無
面会	直接面談	4	まずは、電話にて相談してください。							月	火	水	木	金	土	日	多職種の方々への要望 (連絡時の注意事項を含む)		
	往診同席	3																	
	外来同席																		
サービス担当者会議への医師の参加		訪問診療に合わせて開催の場合	○ 参加可能		・ 参加困難														
		開催する時間が都合つく場合	○ 参加可能		・ 参加困難														
		FAXでの照会記載	○ 可能		・ 困難														
在宅医療の取り組み		往診	○ 対応している		・ 対応していない														
		かかりつけ患者以外の随時往診	○ 対応している		・ 対応していない														
		訪問診療	○ 対応している		・ 対応していない														
		在宅療養支援診療所の届出	○ 有		・ 無														





# コミュニケーションスキル研修会

**第1回研修会**  
コミュニケーションの内容

**第2回研修会**  
コミュニケーションの関係

**第3回研修会**  
多職種実践



## 第1回 コミュニケーションスキル研修会

目的：多職種が顔を合わせて行くことで信頼関係を構築していく。

日時：平成24年8月12日(土)14時～17時

会場：尾西グリーンプラザ

講師：名古屋大学大学院医学系研究科 阿部恵子先生

「この態度、怖くありませんか？聴き方、話し方で介護現場がもっと楽しくなる」

参加者：45名(薬剤師、看護師、PT,OT,ケアマネ、介護職等)

### ・アンケート結果(一部抜粋)

職場での活用度

多職種とのコミュニケーションについて

・役に立つと思うが、95%

・理解できたが、86%





## 第2回 コミュニケーションスキル研修会

日時：平成24年11月17日(土)13時～17時

会場：一宮地場産業ファッションデザインセンター

講師：名古屋大学大学院医学系研究科 阿部恵子先生

「お医者さん・看護師さんに気軽に聞いてみよう！」

参加者：41名(医師、看護師、ケアマネ、ワーカー、介護職等)

### ・アンケート結果(一部抜粋)

職場での活用度

多職種とのコミュニケーションについて

・役に立つと思うが、68%

・理解できたが、90%





## 第3回 コミュニケーションスキル研修会

### ごちゃまぜ研修会

日時：平成25年2月21日(木)18:30～20:00

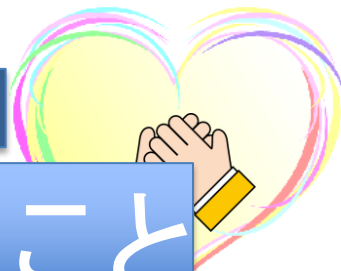
場所：一宮地場産業ファッションデザインセンター

講師：吉村 学先生

(揖斐郡北西部地域医療センター センター長)

「事例を通じ、介護に関わる職種の役割について理解を深めるとともに、顔の見える関係を築くことで連携をより円滑にし、地域住民により良い生活を提供するために」

参加者：医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネ、介護士、ワーカー、学生等



## 研修会を通じ明らかとなったこと

- ◆介護従事者からすると、医師、看護師、病院のワーカーが加わる研修会は新鮮であった。
- ◆医師との連絡が取りづらく悩んでいるケアマネが多い。
- ◆ケアプランを作成する際に、医師からのアドバイスが欲しいと思っているケアマネが多い。
- ◆多職種参加の研修会を重ねていくうちに顔の見える関係が構築されつつある。



## 一宮西病院で講演会 ～在宅医療の現状について～

目的：在宅医療の病診連携推進

日時：平成24年10月24日(水)15時～

会場：一宮西病院 大会議室3・4

「社会復帰から生活復帰の医療へ」

井上雅樹 院長

「在宅医療の問題点と今後の在宅医療の進歩に必要な対策」

「当院での肺炎治療の流れ」

伊原直隆 先生

参加者：61名(医師、看護師、コメディカルの方に在宅医療の理解を頂いた。)





# 第1回 在宅医療推進の会

**目的：** 旧尾西地区の診診連携推進

**日時：** 平成24年11月27日(火)20時～

**会場：** 一宮西病院 大会議室3F

**参加者：** 2病院、17診療所(医師、地域連携室ワーカー、合計29名)

- 問題点**
- ・訪問診療を行っている診療所が少ない。
  - ・24時間体制という言葉への不安がある。
  - ・待機する精神的なストレスがある。
  - ・今は、まだ入院も出来るし、困っていない。等



## 第2回 在宅医療推進の会

日 時：平成24年12月18日（火） 20時～

会 場：泰玄会病院 会議室2F

参加者：2病院、13診療所、2訪看ステーション

（医師17名、看護師2名、地域連携室ワーカー3名）

勉強会：在宅療養支援診療所（従来型、強化型）について





## 第3回 在宅医療推進の会

日 時：平成25年1月29日（火） 20時～

会 場：真清田神社 参集殿

参加者：2病院、12診療所（医師14名、地域連携室ワーカー3名）

講 演：一宮市の在宅で認知症患者を診るための課題

「BPSDの理解と対応」

いまいせ心療センター 認知症センター

水野 裕 先生

「在宅医療の推進について」

井上 雅樹 先生

\* 認知症の方への、初期対応や家族へのアドバイス等を学ぶ。



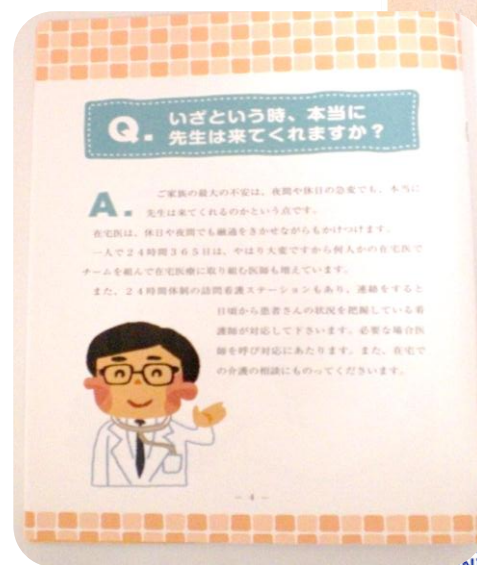
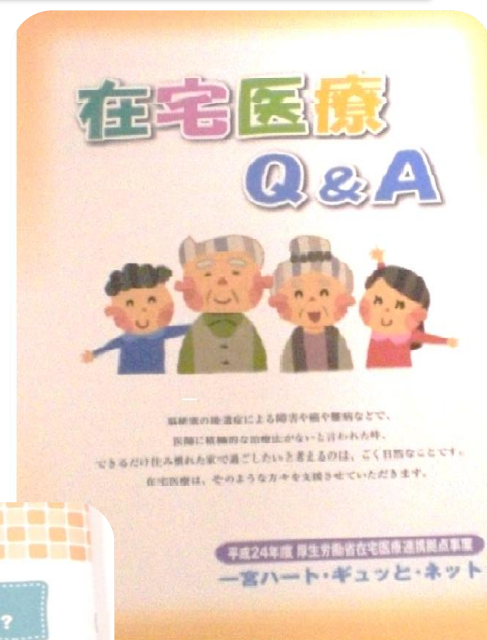
## 診診会議で明らかとなったこと

- ◆在宅医療の重要性を自覚しにくい
  - ・多忙である
  - ・経済的なインセンティブを感じにくい
- ◆24時間体制という言葉への不安感
  - ・生活スタイルの変化への不安
  - ・24時間しっかり対応したいという職業的使命感の高さ



## 在宅医療に関する地域住民への普及啓発

- ・在宅医療Q&A小冊子の作成
- ・民生委員会会合(5地区)に参加
- ・公民館などで、小講演会開催
- ・寸劇



厚生労働省在宅医療連携拠点事業一宮ハート・ギュッと・ネット

在宅医療推進シンポジウム

ご存じですか？在宅医療  
～自宅で家族と過ごしたい～

病気や障害があっても、自宅で療養できる在宅医療について考えましょう。

日時：平成25年3月23日(土)14時～

会場：尾西庁舎6F 大ホール（定員300名）

寸劇：「自分の家で暮らしたい!」

シンポジウム： テーマ「在宅医療について考える」

協賛：一宮市

後援：一宮市医師会



## ◆ 在宅医療に従事する人材育成

- ・都道府県リーダー研修終了

- ・地域リーダー育成

- ・**ごちゃまぜ研修会**（2月21日）

（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネ、介護士、  
医療系学生等参加）



## ◆ 災害復興（緊急時対応）

- ・災害用物資備蓄品検討
- ・在宅患者連絡網の作成



# 実績

- ◆ 多職種連携を目的とする研修会の開催
  - 連携不足の背景には職種間の心理的障壁
    - ・多職種が一堂に会する研修会を実施
    - ・グループワークを通し顔の見える関係構築
- ◆ 病診、診診連携を目的とする研修会の開催
  - スムーズな入退院に向けて
    - ・病院医師を対象に在宅医療の基本的講習会開催
  - 診療所医師の在宅医療への動機付けに向けて
    - ・在宅医療総論、制度、診療報酬に関する講習会開催
- ◆ 市民の啓発
  - 寸劇を交えた在宅医療に関するシンポジウムを一宮市と共催  
(3月23日予定)
  - 在宅医療をテーマとした小規模な座談会の開催(予定)



## まとめ

- ◆多職種参加の研修会は、顔の見える関係作りに有効であり、今後も継続していく必要がある。
- ◆診診会議を継続し、診療所間での情報交換が必要である。
- ◆市、市医師会と協力し持続可能な24時間体制、連携体制を組織的に構築する必要がある。
- ◆民生委員や老人会などを通じて、在宅医療の普及啓発活動を継続していく。